

ジェイアールバス東北本部

第19号

2021年11月22日

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-4-3 JR東労組仙台地方本部内
NTT:022-297-0155 JR:031-3981~3983
発責：佐藤 秀一 編集：情宣部

年末手当の会社回答を受けて これが職場の「切実な声」だ！

「2021年度年末手当に関する申入れについてバス東北会社より回答を受けて以降、バス東北本部に職場の切実な声が届けられています。



退職者が多く出ており、要員不足のなか奮闘している組合員・社員の苦勞に忘れてもらえると思っていた。休日出勤にも最大限協力してきたが、出すものを出さなければ協力するのもバカバカしい。

会社は、職場の現状を分かっているのか。休日出勤や転勤・助勤でなど社員の協力で何とか業務が回っている。こうした状況のなかで、夏季手当よりも下がることはあり得ない。

今の会社の経営状況を理解し、現業機関の廃止による業務移管など会社施策にも協力してきた。泊り行路が増え身体的にも厳しいなかでも頑張ってきたのに、この低額回答は到底納得出来ない。

契約社員の生活は、本当に厳しく切り詰めた生活を強いられている。この額では、子供の学費などの支払いが出来ない。この年収で生活をしてもらいたい。本当は分っているはずだ。

社員を大事にしなければ退職者が増える。残って良かったと思える会社にして欲しい。人に投資しなければ会社の未来はない。

人材流出を防ぐことを考えるべきである。職場雰囲気は暗く、会社から気持ちが離れている。このままでは離職者が増える一方で現場の負担が増えるだけである。辛くなるのは現場で奮闘している社員である。

会社も苦しい。だから協力してきた。現場社員が頑張っているから会社が成り立っている。会社の経営だけではなく社員も見えて欲しい。毎月の生活が苦しくボーナスだけが頼りだ。

職場でも組合員・社員の生活実態を訴えてきたが、会社には伝わっていないのか。年末年始の繁忙期輸送について協力を求められたが、頑張っても反映されないのではやる気が出ない。

生活のために働いている。これまでも我慢してきた。もう我慢の限界であり今後を考えなければならない。転職を考える。

**職場の声を重く受け止め
最後までたたかいをつくり出していきます！**

